

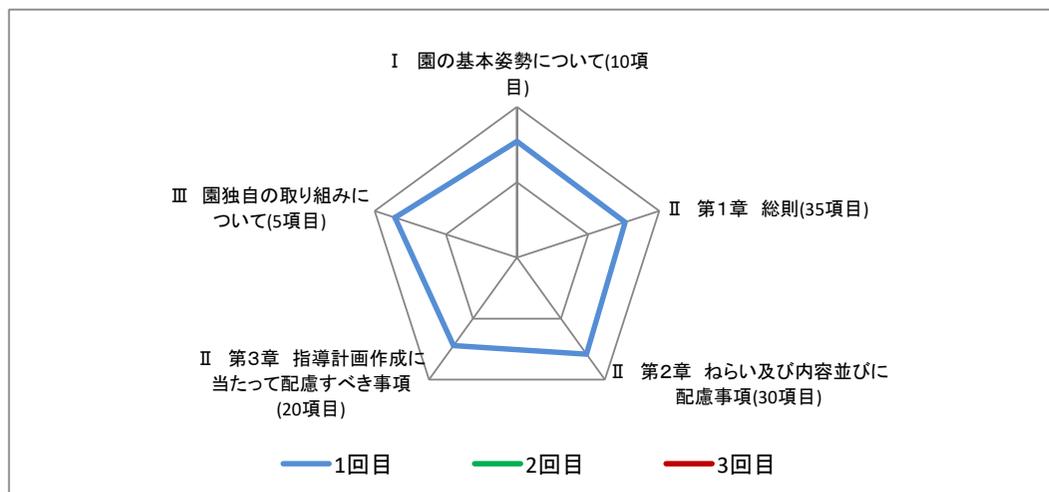
### <評価方法>

十分理解できている(十分できている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

### 集計結果

回答人数		22 人												ポイント
		1回目												
評価		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	
I 園の基本姿勢について(10項目)		112	77	19	1									2.31
II 第1章 総則(35項目)		425	199	83	9									2.28
第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項(30項目)		383	162	94	8									2.37
第3章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項(20項目)		226	118	38	3									2.16
III 園独自の取り組みについて(5項目)		75	25	8	0									2.57
														<b>2.34</b>

### レーダー



# 自己評価総合分析表

No	氏名	評価項目					平均点
		園の基本姿勢について	第1章 総則	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	第3章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項	園独自の取り組みについて	
1	土戸香奈子	2.90	3.00	3.00	1.65	3.00	<b>2.71</b>
2	安田亜紀子	2.50	2.69	2.40	2.60	3.00	<b>2.64</b>
3	山田さやか	2.00	1.77	1.93	1.55	2.40	<b>1.93</b>
4	遠山由紀菜	2.60	2.91	3.00	2.90	2.80	<b>2.84</b>
5	石津みさき	2.80	2.63	2.53	2.95	2.80	<b>2.74</b>
6	鈴木真由子	2.20	2.26	2.20	2.05	2.80	<b>2.30</b>
7	本多桜	2.20	1.91	1.93	1.80	2.60	<b>2.09</b>
8	小野田奈那子	2.50	2.66	2.73	2.75	3.00	<b>2.73</b>
9	榛葉日菜	2.80	2.63	2.70	2.75	3.00	<b>2.78</b>
10	大石夢奈	2.80	2.83	2.80	2.95	2.80	<b>2.84</b>
11	岩附瑞夏	2.90	2.97	2.97	3.00	3.00	<b>2.97</b>
12	平松梨奈子	2.80	2.86	2.83	2.85	3.00	<b>2.87</b>
13	丸尾聖	2.60	2.46	2.90	2.45	3.00	<b>2.68</b>
14	清水希紗良	2.80	2.69	2.93	2.70	2.80	<b>2.78</b>
15	福田まや	2.60	2.80	2.60	2.55	2.80	<b>2.67</b>
16	窪野令子	2.60	2.80	3.00	3.00	3.00	<b>2.88</b>
17	西家美紗登	2.40	2.46	2.83	2.20	2.20	<b>2.42</b>
18	西家美紗登	1.40	1.20	1.00	1.30	2.20	<b>1.42</b>
19	山崎香織	1.00	0.57	0.97	0.00	0.60	<b>0.63</b>
20	前田瑞果	1.30	0.71	1.27	0.45	1.80	<b>1.11</b>
21	澤田美和子	1.90	1.74	2.63	1.60	2.60	<b>2.10</b>
22	渡辺優依	1.30	1.63	1.07	1.55	1.40	<b>1.39</b>

# 自己評価結果公表シート

2024年度

## 1、法人理念

三快五感の子育て

【三快】 よく食べ(快食) よく遊び(快遊) よく眠る(快眠)

【五感】 目 目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子  
耳 耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子  
鼻 鼻を利かせ 善悪をすどく感じる子  
口 舌を生かし すいも甘いも理解する子  
手 手を使い なんでもよく体験する子

## 2、願う子どもの育ち

健康で明るい元気な子

不思議を探し、発見をいっぱいする子

うれしい時、かなしい時、人の気持ちがわかる子

## 3、教育保育方針

園内にある「まいまい山」は小動物や野鳥、昆虫が子どもたちを迎え入れてくれています。四季を感じられるたくさん自然に囲まれて、子どもたちは小さな「命」に触れながら、自らの「命」を実感します。

子どもは一人ひとり成長の段階も、興味を持つことも様々。本園では、生きる力の源である意欲や自信を、一人ひとりの子どもと丁寧に関わることで育みます。

乳幼児期の子どもたちにとって「生活＝教育＝遊び」です。子どもの発達に合わせた遊びの環境を充実し、豊かな遊びの中で子どもが主体的に活動に取り組むことを大切にします。

## 4、「子どもの育ち」のために

- 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていける。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていく。
- みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていく。
- 年齢に応じた基本的な生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

## 5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均(3点満点)
I 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え 等	2.31
II 認定こども園教育・保育要領	第1章 総則	2.28
	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	2.37
	第3章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項	2.16
III 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していることの理解 等	2.57

# 自己チェック評価表

	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
個人評価	視点		
	1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。 4、保護者との連携は十分に取られていたか。 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。 等		
	・保護者対応での支援にむけての話や日々の保育の中で、保護者に伝えることをより丁寧に心がけた。 ・たてわり2年目として楽しみながらクラス運営ができていた。 ・どのクラスも子どものこと、環境のこと、職員同士のことなど様々ありながらも、子どもたちのことを一番に考えながら保育できた。 ・遊具や道具の破損がないか確認したり、月ごとにテーマを設定して戸外環境を作り、子ども達が安全かつ楽しく遊べるようにできた ・場面の切り替えが苦手な子に対して、事前に伝えたり保育者が一緒にやったりして安心感を感じられるようにした ・去年と同じ学年ということもあり、見通しを持って保育を考えられたこと。	・先生一人一人に目が届いていなかったと反省している。保育の話しも話しやすい人にかたよりがあった ・山遊びが例年より少なくなってしまった。自然にもっと触れたかった ・室内での遊び方、自分の動きをもっと勉強すること ・変えた方が良かった時にすぐに環境を変えることができない時があった ・担当児は毎日関わるため把握しやすいが、他の職員の担当児は遊びの場面しかほとんど関りがなく担当職員に聞くことしかできず発達を捉えることが難しかった。 ・年少の年度始め、生活の面で自立していない子が多かったため、保育者のつく人数や配置を例年通りではなく、その年の子どもに合わせて変える必要があった。	・園の特色を大切にしたい保育内容を大切にしたい ・自分の中で優先順位をつけたり、他の保育者と連携を取ったりする ・担当児以外の成長発達も把握できるようにしていく。経過記録やエピソード記録等も見て自分とは違う視点での子どもの姿も知っていききたい。 ・様々な課業の引き出しを増やすため、いろんなクラスの様子を見る時間を作りたい。 ・うぐいす～年少の流れをもう少しスムーズに子ども達が困らない生活の手順や流れを考えていく ・いろいろな保育者のアイデアや考え方を知り、自分なりに受け取って九州していきたい ・自分の考えていることやわからないことを言語化し、共有する。
1、保育教諭等の中で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の中で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成(物の配置等を含め)適切だったか。			
クラス運営評価	・クラス間の情報共有がしっかりできた ・乳児主任やリーダーを中心として連携を取りながら保育することができた。 ・環境構成について、職員それぞれが子どもの姿に合わせて経験してほしいことや取り入れたいものを考え、話し、意見を出して構成することができ良かった。 ・副担任、フリー職員と必要な情報を共有し、連携を取りながら保育することに努め、全体としての課題は、主任や副園長に相談し、課題解決に努めた。 ・保育の中で悩み事がある時は沢山質問し、指導してもらった	・お互いの様子が見えにくい時があった ・話し合いが十分にとれないことで共通理解できていないことが起き、悩むことがあった ・乳児は職員が多いため、全職員で連携を取ったり情報を共有することが難しかった ・課業のテーマに沿った物を、子どもたちの遊びを予測して用意するのが難しかった。 ・副担任と環境構成や玩具の見直しを一緒に確認する時間をとることが難しかった ・登園時に保護者と先生が対面して子どもを引き渡していないことがあったため、危険がないよう直接やりとりすることを保護者と共通認識を持つべきであった。	・保育の合間で情報を共有することはできていたが、毎週1時間でも話す時間があれば、もっと細かい部分も共通できるのではないかなと思う ・クラスの職員と保育や子どものことを話す時間を短時間でもいいので、週に1回程度設けてもらえるとうれしい。 ・子どもが一人で登園したり、駐車場へ行かないように安全に過ごせること ・クラス職員全員が共通理解を深めるために、月1回のクラス会をもっと有効活用し、話し合う内容を具体的にしていって更に保育の質を高めていきたい。
園全体評価	視点		
	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域の関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。 等		
	・感染症の脅威も低くなり、保護者や地域の方に参加していただける行事が増えた。 ・「伝える」ということをテーマに縦のつながり、横のつながりを意識した組織づくりを目標にしてきたが、一定の評価ができた。 また、園見学や公開保育を通じて、対外的にも園の保育内容を十分にアピールできた。	・職員配置に余裕がなく、研修への参加率が低かった。十分な人材の確保が必要になる。 ・保育内容の理解や実践について、園全体の底上げがまだまだ必要。	・引き続き質の高い教育保育内容を継続し、職員間の共有と保護者との共感が得られるように質の向上と情報の発信に努めたい。 ・ICTの導入について、実践へとつながられるような計画をたてる必要がある。